

*NEWS RELEASE*



- ◆
- ◆
- ◆

D E L H A D E H C D C I I I C E E B I C GB D C

KE

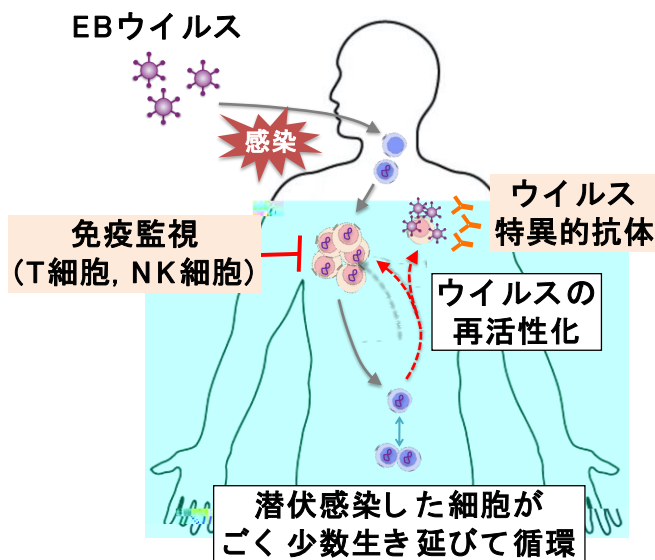
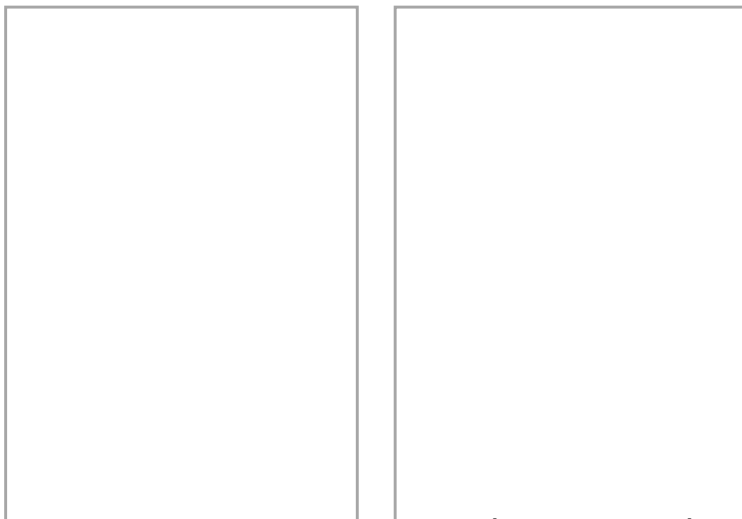


図1 EBウイルス感染と免疫系による監視

EBウイルスは経口感染するとB細胞に感染する。感染B細胞は免疫監視を担うT細胞やNK細胞によって抑制排除される。しかしながら、ウイルス感染したごく少数の細胞は排除を逃れることで長期に渡る潜伏感染が成立する。ウイルス再活性化の抑制には抗体を介した免疫も寄与する。



**図2 EBウイルス感染細胞によって  
方向づけられるCD4陽性T細胞のキ  
ラーT細胞分化**

胸腺から発生するCD4陽性T細胞は本来ヘルパーT細胞になるよう運命づけられているが、EBウイルス感染細胞に遭遇して反応するとキラーT細胞へと分化誘導される。このようなCD4陽性キラーT細胞は通常のCD8陽性キラーT細胞と機能的に類似するが、MHC拘束性のみが異なる。

G.“G.+4I© (T\$1•B!1•B!1f!C 3 c a#%oÅ1`HãS%“ 5"€ÂW3bdEBcd™è& xÂ)t"SD)sRRâ—& F,

(18H02669), ( ) (19K22538), (17H06937), (B) (B) (21H02751), (B)

